

くすのき学級「やまと」(総合的な学習の時間)学習指導案

公開

学 級 　　くすのき学級(3名)

授業者

1 単元名 　　「野菜作りでがんばってきたことを伝えよう」

2 指導の立場

(1) 単元について

くすのき学級は、開設4年目の知的障がい併せもつ児童の在籍する自閉症・情緒障がい特別支援学級である。食育基本法の条文には「食育は、広く国民が家庭、学校、保育所、地域その他のあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の生産から消費等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを旨として行われなければならない。」とある。また、文部科学省の「食に関する指導の手引」には、「障がいのある児童生徒が将来自立し、社会参加するための基盤として、望ましい食習慣を身に付け、自らの健康を自己管理する力や食物の安全性等を自ら判断する力などを身に付けることは極めて重要」とあることの意味を十分受け止めて、体験活動を軸にすえ、自立的な生活につながる指導をしていきたい。

本単元では、年間を通じて、野菜を「育てる楽しみ」と「食べる楽しみ」に依拠した体験活動を行う中で、作物の生長を見る喜びや動植物の不思議さ、育てたり食べたりする楽しみに伴う苦労や工夫が必要なことをたっぷり実感できるように促していく。そして、やってきたことをスライド等にまとめて、交流学級の児童に発表したり、サツマイモのおやつやダイコンのつけものを届けて味わってもらったりする活動を通して、やり遂げて認められた喜びや役立つ実感を得られるようにすると共に、個々の食に対する関心を高め、将来を見据えたよりよい食生活を目指して実践に移す力を養っていきたいと考える。

総合的な学習の時間の指導としては、特に、野菜の栽培や調理活動で体験したことや収集した情報を分析したりまとめたりして、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることを大切に、単元を通じた言語活動である「交流学級の仲間に、野菜作りで学んだことがよく伝わるスライドを作って発表しよう」という課題に向かって取り組めるようにする。交流学級の仲間に伝えるべき内容を話し合っ決めて、自分なりに伝えられる力を養っていき、「自分の力でできた」、「先生や仲間に認めてもらえた」という自信につなげたい。この自信は、自分のよさの発見や新たな成長の気づきになり、自分や仲間との生活や生き方との結びつきを深めていくことになると考えている。

(2) 児童の実態について (4年男子1名 5年男子1名 6年男子1名 計3名)

本学級の児童には、「食に関するこだわりがある」「嚥下や咀嚼の力が弱い」などといった特徴があり、「好き嫌いなく食べる」「バランスよく食べる」「よく噛んで食べる」「感謝の心をもつ」などの食育に関する指導が必要である。また、「課題に集中する時間が短い」「姿勢の保持が難しい」などの特徴があることから、「集中力の持続」「体幹の保持」「両手協応」などの指導も併せて行う必要がある。

野菜を作って調理する活動は4年目を迎えており、これまで、食事のマナーも含めて指導してきた。児童は自分で育てて作ったものには興味をもち、ピーマンなど、食べられる野菜も増えてきている。

調理したものを届けて喜んでもらう活動については、昨年度、お金の学習の一環として低学年児童に鬼まんを作って買ってもらうという経験をしているが、野菜を作って調理する活動をまとめて交流学級のみみんなに発表したり、成果品を味わって喜んでもらうことは初めての経験である。ぜひともみんなの前でやり遂げて認められた喜びや役立つ実感が得られるようにしたい。さらに、今回の取組を通して、食べ物を栽培することの大変さや心地よさを知り、食べ物や生産者に感謝して食べることができる「感謝の心」や、感謝の気持ちの表れとして、好き嫌いせずに食べることができる「心身の健康」面での深まりを期待したい。

なお、6年男子については、現在、中学校進学を機に通常の学級での学校生活がかなうように、交流学級での仲間と共に学ぶ機会を増やしているところである。総合的な学習の時間においても通常の学級での学習活動に参加しているが、これまで、くすのき学級の仲間と野菜作りをしてきたという経緯や今回の取組を通して期待できる学習効果を考え、学級裁量の時間などを使ってできる限り取り組んでいくように促しながら、3人全員で発表できる姿を目指したい。

3 研究主題に関わって

食の楽しさや大切さに気付き、よりよい食生活を生み出す子の育成

～食育の推進による健やかな体づくりをめざして～

研究仮説

給食の時間や学級活動、教科指導、総合的な学習の時間など全教育活動で食に関する指導に取り組むことで、児童が食に対する関心を高め、よりよい食生活をめざして実践に移すことができるであろう。

《総合的な学習の時間》 研究の視点2 生活実践力につなげるための学習過程の工夫

(1) 児童の食に対する関心を高め、学ぶ意欲や必然性をもたせる課題づくりの工夫

これまでの発表練習やおやつ作りの苦勞が端的に思い出せる写真、感想の視点に①発表の仕方②発表の中身③おやつ味の3つがあることなど電子黒板で確かめながら、本時の課題につなげていく。

また、今日の発表で挑みたい個々のめあてをはっきりさせて発表に挑んでいくように促していく。

(2) 児童の思考を深めるための課題追究のあり方

<意欲的な追究や生活実践力につなげるための学習活動の工夫>

予定している発表の内容は以下の通りである。

作ってきた野菜の写真と名前の紹介(17種類)
一番えらかった仕事(うね作りの取組から)
種のクイズとまき方について
種まき後のトウモロコシの生長から
一番たくさんとれた野菜と虫退治の工夫
サツマイモで作ったおやつ
野菜作りをしてきて大切にしたいと思うこと

本時は、教師の感想をもとに改善してきた発表スライドを使って6年生に野菜作りの発表をして感想を聞き、よかったところやおしかったところを教えてもらう時間である。6年生はCさんの交流学級であり、前時までにくすのき学級として協力してまとめ直した発表を交流学級の子たちがどう受け止めてくれるかを大いに注目しながら学習活動に挑むことであろう。もらった感想を3つの視点でメモして確実に捉えられるようにしていきたい。

交流学級の6年児童からは“野菜を育てる苦勞や工夫がよく分かる発表で、おやつ味もよかった”という感想がもらえるようにし、“食物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。”という食に関する指導目標の達成に迫っていきたい。

<教材・教具の工夫>

野菜を育てる苦勞や工夫がよく伝わるように、120枚の写真中心のスライドに仕上げ、個々の発達特性や興味、関心に応じて役割やせりふを決め、自分たちで電子黒板を使って25分程度で伝えていけるようにする。また、導入から終末まで、電子黒板を用いて進められるようにしたい。

(3) 学んだことを自分の生活に活かすための終末の工夫

Cさんの取った感想メモを位置付けると共に、自分なりのめあてに対する振り返りができるようにする。できたことを大いに称賛しながら次時の家の人に伝える活動への意欲化を図りたい。

4 単元の目標と評価の観点

(1) 単元の目標

作りたい野菜の栽培方法やおいしい調理方法を調べて実際に体験する中で、してきた苦勞や工夫、発見や喜びをスライドにまとめて伝える活動を通して、やり遂げ喜びや役立つ実感を得ると共に、いろいろな野菜に興味をもち、自然の恵みに感謝して残さず食べたり無駄なく調理したりしようとする態度を育てる。

(2) 評価の観点

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	野菜作りや調理，発表等をするために解決すべき課題を明らかにしている。 野菜作りや調理，発表等に必要情報を集め，整理・比較・関連付けをして考えている。 相手や目的に応じて，分かりやすくまとめ，表現している。 学習の仕方や進め方を振り返り，学習や生活に活かそうとしている。	野菜作りや調理，発表等に向けて，自分にできることや得意なことを生かして進んで取り組んでいる。 野菜作りや調理，発表等の活動を通して自らの生活を見直し，実践しようとしている。	異なる意見や他者の考えを受け入れている。 他者と協同して課題を解決している。

(3) 食に関する指導目標()と指導内容(・)

食事の重要性，食事の喜び，楽しさを理解する。「食事の重要性」(重)

・食事は，人間が生きていく上で欠かすことのできないものであること。(ア)

・仲間との食事や食味のよさは，心を豊かにすること。(イ)

・自ら調理して食事の準備ができることは，健全な日常生活の基盤を支える技術であること。(ウ)

心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し，自ら管理していく能力を身に付ける。「心身の健康」(心)

・手洗いやよくかむこと，よい姿勢や和やかな雰囲気作りは，食事の基本であること。(ア)

・栄養のバランスをよくするために，好き嫌い無く食べることが必要であること。(イ)

・自分の食生活を見つめ直し，よりよい食習慣を形成しようと努力すること。(ウ)

正しい知識・情報に基づいて，食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。

「食品を選択する能力」(選)

・日常食べている食品や料理の名前や形を知ること。(ア)

・食事の準備や後片付けは，安全や衛生に気を付けて行うこと。(イ)

・食品の品質の良否を見分け，食品に含まれる栄養素やその働きを考え，適切な選択をすること。(ウ)

・食品の衛生に気を付けて，簡単な調理をすること。(エ)

食物を大事にし，食物の生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。「感謝の心」(感)

・食生活は，生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力に支えられていること。(ア)

・食料の生産は，すべて自然の恩恵の上に成り立っていること。(イ)

・食という行為は，動植物の命を受け継ぐことであること。(ウ)

・食事のあいさつは，食に関しての感謝の気持ちの表現であること。(エ)

・感謝の気持ちの表れとして，残さず食べたり無駄なく調理したりすること。(オ)

食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。「社会性」(社)

・協力して食事の準備や後片付けをすること。(ア)

・はしの使い方，食器の並べ方，話題の選び方などの食事のマナーを身に付けること。(イ)

・協力したりマナーを考えたりすることは，相手を思いやることであり，楽しい食事につながること。(ウ)

・マナーを考え，会話を楽しみながら気持ちよく会食をすること。(エ)

・自然界の中で動植物と共に生きている自分の存在について考え，環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする事。(オ)

各地域の産物，食文化や食にかかわる歴史等を理解し，尊重する心をもつ。「食文化」(文)

・日常の食事は，地域の農林水産物と関連していること。(ア)

・地域の伝統や気候風土と深く結び付き，先人によって培われてきた多様な食文化があること。(イ)

5 単元指導計画(全70時間)

主な学習活動 ()...食に関する指導内容	指導上の留意点	評価規準		
		学習方法	自分自身	他者社会
<p>夏野菜を作ろう(25時間)</p> <p>1 作ってみたい夏野菜と調理、発表の仕方を考える (選-ア)</p> <p>2 うねを作る(中耕・石とり・石灰・施肥・マルチ張り) (感-アイ)</p> <p>3 種と苗の入手方法を考え、購入する (選-ア・ウ、感-アイ・ウ、文-アイ)</p> <p>4 播種・移植の仕方を調べて実行し、育ち方を観察する (選-ア、感-アイ、社-オ、文-イ)</p> <p>5 ブロッコリー・イチゴの収穫をして味わう (重・心・選・感・社 全内容)</p> <p>6 ソラマメについてアブラムシをとる (感-アイ・ウ、社-オ)</p> <p>7 ソラマメ・ジャガイモ・ネギの収穫と調理をする (重・心・選・感・社 全内容)</p> <p>8 野菜看板を作って立てる (選-ア)</p> <p>9 4月からの取組で伝えたいことを決めてスライドを作る (選-ア、感-アイ・ウ)</p> <p>10 取組んできたことを家の人に発表する (感-アイ・ウ)</p> <p>11 ピーマン・ナス・トマト・キュウリの収穫と調理をする (重・心・選・感・社 全内容)</p> <p>12 うねを作ってラッカセイ・ニンジン・オクラの種まきをする (選-ア、感-アイ)</p> <p>13 鳥や台風から野菜を守る方法を考えて実行する (感-ア)</p> <p>14 夏休みの野菜当番を決める (感-ウ・オ)</p> <p>15 トウモロコシの収穫をして味わう (重・心・選・感・社 全内容)</p>	<p>・野菜作りの体験を通して学んだことを伝える活動が加わったことを自覚できるようにする。</p> <p>・うね作りにあたっては、今までにやったことのない管理機を用いた中耕体験がどの児童もできるようにする中で、意欲を喚起する。</p> <p>・コミュニティバスを利用する際の時刻表や停留所、料金など、ネット検索で得た情報を生かして得た情報をもとに農協直売所やスーパーに出かけて野菜の種と苗の購入体験・調理食材の買い物ができるようにする。</p> <p>・播種や移植、害虫駆除体験に際しても、ネット検索による情報を確かめながら、自分たちで調べて得た情報をもとにして行うことができるようにする。</p> <p>・プレゼンテーションソフトを使って発表できるようにする。</p> <p>・1回目は、うね作りと買い物体験、夏野菜の播種・定植、調理を中心に、6月の授業参観で保護者に発表できるようにする。</p> <p>・図工の指導とつなげたお絵かきソフトによる野菜看板制作と設置、台風やカラスに備えたネットや支柱の設置など、児童が進んで挑戦してみたいと思える状況を作って指導できるようにする。</p> <p>・それぞれの活動にどのように取り組んだかがよく分かるように、できる限り写真に収めておき、発表に生かせるようにしたり、毎回の取組でつかんだ児童のよさや課題を連絡帳に打ち込んだり学級通信でとりあげたりして、保護者にも確実に伝えられるようにする。</p>	1	~	
		2		
		3	~	
		4	~	
		5		
		6		
		7	~	
		8	~	
		9	~	
		10	~	
		11	~	
		12		
		13	~	
		14		
		15	~	
<p>冬野菜を作ろう(25時間)</p> <p>1 作ってみたい冬野菜と調理、発表の仕方を考える (選-ア)</p> <p>2 うねを作る(中耕・石とり・石灰・施肥) (感-アイ)</p> <p>3 種や調理食材を購入する (選-ア・ウ、感-アイ・ウ、文-アイ)</p> <p>4 種をまいて、育ち方を観察したり間引きしたりする (選-ア・ウ、感-アイ・ウ・オ、社-オ)</p> <p>5 オクラ・サツマイモ・ニンジンの収穫と調理をする (重・心・選・感・社 全内容)</p> <p>6 ポニーにサツマイモとニンジンを食べてもらおう (重-イ、感-アイ・ウ・オ、社-オ)</p> <p>7 ハクサイ・ダイコン・オクラにつく害虫を調べて駆除する (感-アイ・ウ、社-オ)</p> <p>8 野菜看板を作って立てる (選-ア)</p> <p>9 ラッカセイ・ハクサイ・ダイコンの収穫と調理をする (重・心・選・感・社 全内容)</p> <p>10 タマネギの移植の仕方を調べて実行する (選-ア、感-ア、文-ア)</p> <p>11 つけものや切干大根の作り方を調べて実行する (選-アイ・ウ、感-オ、文-アイ)</p> <p>12 つけものを切って味わったり届けたりする (重・心・選・感・社 全内容、文-ア)</p>	<p>・4月のコミュニティバスを利用した種や食材の購入体験やうね作りの時より、教育的援助を少なくして様子を見るようにする。</p> <p>・ダイコンやハクサイ、ニンジンなど、間引いた野菜の調理の仕方を考えておいしく食す中で、無駄なく調理することの大切さとよさがつかめるように指導する。</p> <p>・今年度初めて行うポニーの乗馬体験に際し、ポニーが喜んで食べてくれるニンジンやサツマイモを収穫して実際に食べてもらう中で、成功感和育てた喜びが得られるようにする。</p> <p>・保存食としてのつけものや切干大根作りに挑む中で、先人によって培われてきた多様な食文化があることを実感できるようにする。作ったつけものは、2学期末の給食に出して、全校児童に食べてもらえるようにし、役立つ実感を得られるようにする。</p> <p>・ハクサイは、皮から作る手作りぎょうざのアンに用い、親子で作る体験につなげる。</p>	1	~	
		2		
		3	~	
		4	~	
		5	~	
		6	~	
		7	~	
		8	~	
		9	~	
		10	~	
		11	~	
		12	~	
<p>野菜作りでがんばってきたことを伝えよう(20時間)</p> <p>1 伝えたいことを決めて見通しをもつ (重-イ 感-アイ・ウ・エ)</p> <p>2 スライドを作ったりおやつを作ったりする (重・心・選・感の全内容、社-アイ)</p> <p>3 先生方に発表して改善する (重-イ 感-アイ・ウ・エ)</p> <p>4 改善スライドを用いて交流学級の仲間に発表する (重-イ 感-アイ・ウ・エ)</p> <p>5 これまでの体験と自分が学んだことを振り返る (感-アイ・ウ)</p>	<p>・プレゼンテーションソフトを使って発表できるようにする。</p> <p>・まとめの発表に向けて、担当する野菜等を決めて取り組み、野菜クイズを出したり、サツマイモを使ったおやつを味わってもらったりする場面を設定したりする。</p> <p>・家の人 教師 交流学級 家の人と、伝える対象を段階的に設けていく中で考えを深められるようにする。</p>	1	~	
		2	~	
		3	~	
		4	~	
		5	~	

6 「野菜作りでがんばってきたことを伝えよう」の指導と評価の計画

時	ねらい (食に関する指導内容)	学習活動	評価規準
1 3	4～10月の野菜作りの取組を振り返って伝えたいことを決め、がんばり発表について見通しをもつことができる (重-イ, 感-ア・イ・ウ・エ)	他学級の野菜作りのがんばり発表を見て、学習課題への見通しをもつ。 野菜作りの発表の仕方を考えよう。 学級通信の記事や活動時の写真を見直す。 がんばってきたことを思い出して考えを出し合う。 発表相手と構成を考える。 担当場面を決める。 味わってもらふ野菜と調理方法を決める。	【学習方法】 解決すべき課題を明らかにしている。 必要な情報を集め、整理・比較・関連付けをして考えている。
4 12	がんばってきたことが伝わるスライドを作って練習することができる (重・心・選・感の全内容 社-ア・イ)	学習課題を確かめる。 がんばってきたことが伝わるスライドを作って練習しよう。 発表で使う野菜の料理を作る。(家庭科) 担当場面のスライドを作る。 スライドを見て、考えを伝え合い、改善する。 発表の練習をする。	相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現している。
13 16	先生方に発表して自信をもち、教えてもらった考えを取り入れて改善することができる (重-イ, 感-ア・イ・ウ・エ)	学習課題を確かめる。 先生方に発表して、がんばってきたことがよく伝わるか確かめよう。 教えてもらいたいことを伝える。 発表する。 感想を聞いて考えを深める。 本時はここまで 考えを出し合い、改善する。 発表の練習をする。	学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に活かそうとしている。
17 本時	改善スライドを用いてくすのき学級で力を合わせて取り組んできた野菜作りの発表をして交流学級の仲間から感想をもらう活動を通して、野菜を育てる苦労や工夫、発見や喜びを自分なりの言葉で伝え、他者から認められて自信をもつことができる。 (重-イ, 感-ア・イ・ウ・エ)	本時に向けてやってきたことを思い出す。 野菜作りの発表をして感想を聞き、よかったところやおしかったところを確かめよう。 学習課題を確かめる。 発表する。 (育てたサツマイモで作ったおやつを味わってもらう。) 感想を聞く。 お礼を言って送り出す。 感想をもとに考えを深める。	【自分自身】 自分にできることや得意なことを生かして進んで取り組んでいる。 活動を通して自らの生活を見直し、実践しようとしている。
18 20	これまでの体験と自分が学んだことを振り返ることができる (感-ア・イ・ウ)	学習課題を確かめる。 今年の野菜作りの取組で学んだことを家の人に発表しよう。 先生方や交流学級の仲間に発表したときのスライドを作って加える。 授業参観で家の人に発表する。 感想を聞いて考えを深める。	【他者・社会】 異なる意見や他者の考えを受け入れている。 他者と協同して課題を解決している。

7 本時の目標 (17 / 20)

くすのき学級で力を合わせて取り組んできた野菜作りの発表をして交流学級の仲間から感想をもらう活動を通して、野菜を育てる苦労や工夫、発見や喜びを自分なりの言葉で伝え、他者から認められて自信をもつことができる。

8 本時の展開

過程	ねらい	学 習 活 動 ・ 児 童 の 反 応 個 に 応 じ た 援 助			指導・援助・留意事項 人権教育の観点
		Rさん(4年)	Mさん(5年)	Cさん(6年)	
つかむ	やってきたことを思い出することができる。	1 本時に向けてやってきたことを思い出す。 ・喜んでもらうためにがんばってきたよ。			電子黒板で提示する。発表への意欲を高める。 6年生に発表の目的と着眼点を知らせ、後半の感想発表への見通しをもってもらうようにする。 個々に書いたためあてを提示する。
	本時の課題が分かる。	2 本時の課題と個々のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">野菜作りの発表をして感想を聞き、よかったところやおしかったところを確かめよう。</div>			
さぐる	分担に従って役割を果たしながら、自分なりの言葉で発表することができる。	3 野菜作りの発表をする。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;">< 予定している発表の内容 > (パワーポイント使用) 作ってきた野菜の写真と名前の紹介 (17 種類) 一番えらかった仕事 (うね作りの取組から) 種のクイズとまき方について 種まき後のトウモロコシの生長から 一番たくさんとれた野菜と虫退治の工夫 サツマイモで作ったおやつ 野菜作りをしてきて大切にしたいと思うこと</div>			それぞれの伝える力に応じたせりふを工夫すると共に、実物を提示するなどして効果的に発表しているようにする。 クリック等、操作に迷った場合は、そつと援助する。
	喜んでもらいたいという気持ちを込めて配ることができる。	4 育てたサツマイモで作ったおやつを配る。 ・「食べてください」といいながら、気持ちを込めて渡していく。			
深める	自分のよさや仲間と協同して取り組んできたことのよさを認められて、自信をもつことができる。	5 6年生の感想を聞く。 ・ほめ言葉を理解して、嬉しい気持ちになる。分かりやすく伝える。			主体的、協同的に発表に取り組むことができる。(行動力) それぞれが対面して渡せるようにする。 異なる意見や他者の考えを受け入れ、あるべき姿を考える。(自己啓発力)
	課題のまとめを考えて話したり確かめたりすることができる。	6 お礼の言葉を考えて伝える。 ・「～といってもらえて嬉しかったです」などと自分から話す。			
活かす		7 Cさんの取った感想メモをもとに振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">①発表の仕方…○はっきり 協力して よく分かる写真で △早口になる ②発表の中身…○野菜を育てる苦労や工夫がよく分かった ③おやつ味…○おいしかった 見た目も楽しい 売れるくらい</div>			《評価規準》 仲間と共に野菜作りの取組を分かりやすく伝え、もらった感想をこれからの学習や生活に生かそつとしている。 学習方法 ~ 自分自身 他者社会 食に関する指導 目標と内容 (重・イ 感-ア・イ・ウ・工)
		8 今日の頑張りを振り返って教師の話の聞き、次時の活動への見通しをもつ。			